

(一財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は 9 月 14 日の前回定時記者会見以降の動きについてご報告いたします。

1. J A H I は日本医師会の治験促進センターの共催セミナー開催に協力しました

CRC（治験コーディネーター）は製薬会社が新薬を開発する時、最終段階で人体への有効性と安全性を確認するための臨床試験（＝治験）の調整役を果たす重要な職種であり、今回の新型コロナウイルス感染症蔓延のような臨床試験を取り巻く環境の変化の中、CRCが担う業務は多様化し、より煩雑となっています。

日本医師会の治験促進センターはこの度、臨床試験支援財団との共催により、「第 21 回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2021 in 横浜」を開催しました。「未来へつなぐ～クオリティの確保と臨床試験チームの飛躍～」をテーマに、患者側のコミュニティが加わった新たな臨床チームにおいて、CRCはどのように協働し、どのような役割を担っていくのかについて、WEB開催の形で議論が進められました。J A H I は今西信幸会長を講師として派遣し、「医療のRWD調査報告・利活用事例とAIホスピタルについて～日本医師会ORCA管理機構データを用いたAIによるインフルエンザ予報等～」を、先日のJ A H I 活動発表会で「インフルエンザ予報」を紹介した日立製作所研究開発G. の丹藤匠氏とともに講じました。また、協会理事で帝京平成大学教授の小原道子氏は同セミナーの座長を務められています。J A H I は新しい形の連携関係を築き始めています。

なお、インフルエンザ予報サービスは、今後AIの学習データとして、過去の一定期間の罹患患者数情報等が蓄積されれば、新型コロナウイルス感染症を含む様々な感染症の情報発信に応用できるものと考えられています。

2. ドキュメンタリー映画『終わりの見えない闘い～新型コロナウイルス感染症と保健所』の動画配信による自主上映会を行います

住民のいのちと健康を守る公衆衛生は国の根幹でもある「命の安全保障」ともいえる重要な役割であり、その最前線に立たされた保健所は、この度の新型コロナウイルス感染症の蔓延に対して、手薄になった職員数と初めて経験するパンデミックの中で、土曜も日曜も無い過酷な勤務を迫られることになりました。2020 年 2 月から 3 月にかけて、「帰国者・接触者相談センター」が開設された東京・「中野区保健所」では電話回線も、対応する保健師の体制も整わない中、感染を心配する区民から殺到する電話の対応に追われました。

朝、保健所に着いて荷物を置く間もなく、鳴り響く電話の受話器を取る日々。しびれを切らした相手からは罵声を浴びせられ、ひたすら頭を下げ、無我夢中での対応が続く中、SNSでは保健所非難の投稿が続発する戦場さながらの緊迫した毎日。

これまで体験したことなかった危機的状況に、誰からともなく「この体験を雲散霧消させることなく記録に残しておかなければ」との思いから出来上がった 10 カ月の記録がこのドキュメンタリー映画です。

当協会では、帝京平成大学看護学科の工藤恵子教授、薬学科の小原道子教授の推薦により、本作品をできるだけ多くの関係者に視聴していただくため、下記の期間、無償で動画配信することといたしました。＜11 月 30 日（火）0：00～12 月 2 日（木）23：59＞

視聴を希望される方は、近日中に J A H I ホームページに掲載される申込書によってお申込みください。

3. その他

- (1) 「お米で健康推進部会」第 1 回部会：10 月 27 日（水）13：00～15：00 開催
- (2) 「野菜で健康推進部会」第三者委員会：11 月 8 日（月）10：00～12：00 開催
- (3) 昭和女子大学・寄附講座：10 月 7 日開講。来年 1 月 27 日まで全 15 回。
- (4) 今西会長対談は弘明ヘルスケア・荻野社長、ZERO-ONE 松葉社長の順で進捗しています。